News Release

ダイハツインフィニアース株式会社

2025年５月20日

舶用LNGエンジン向けメタン酸化触媒装置の実証試験を開始

このたびダイハツインフィニアース株式会社（以下、IE）と三菱重工マリンマシナリ株式会社（以下、MHI-MME）および三菱造船株式会社は、共同開発を進めていた舶用LNG（液化天然ガス）エンジン向けメタン酸化（※1）触媒装置の実証試験を５月に開始いたします。

実証試験は、KEYS Bunkering West Japan 株式会社のLNG バンカリング船（※2）「KEYS Azalea」に実証機を搭載して、日本郵船株式会社の協力を得ながら実施いたします。

KEYS Azaleaに搭載いただいております、当社主発電機関「6DE23DF」はLNGと重油それぞれを燃料として使用できる高性能LNGデュアルフューエル機関です。また、触媒装置は船舶エンジンの排ガスに含まれるスリップメタン（未燃メタン）を酸化処理します。メタンガスは、GHG（※3）である気体の中でも温室効果が高いため、その排出を抑制できることは、この装置の大きなメリットです。

本装置は、MHI-MME の触媒装置の設計製造技術を中核に、三菱造船の搭載エンジリアリング技術、IEのエンジン最適化技術を融合して開発されました。

スリップメタンを含めたエンジン性能の最適化を実施のうえ、このたび、当触媒装置の陸上試験においてメタン酸化率70%以上の初期性能を確認したため、１年間の継続した実船実証試験を行います。

当社グループは、地球環境保全を重要な経営課題のひとつとして捉え、企業や研究機関等との共同研究に取り組むとともに、事業活動と環境保全の両立に最善を尽くすことで、持続可能で豊かな社会の実現に貢献してまいります。

（※1）メタン酸化:メタン（CH4）が酸素と反応して二酸化炭素（CO2）と水（H2O）に変化する化学反応。

（※2）LNG バンカリング船:LNG を燃料とする船舶に対し、LNG 燃料を供給する小型船。

（※3）GHG:Green House Gas（温室効果ガス）で、CO2、スリップメタン、亜酸化窒素（N2O）が対象。今回、実証試験をする触媒装置は、スリップメタンのみを対象とします。

以 上

お問い合わせ先
経営企画室　広報担当
e-mail：soumu.info@d-infi.com